

Pick Up! トクラス洗面化粧台「Life Dresser(ライフドレッサー)」へ進化

近年、暮らしの多様化が進む中で、洗面化粧台は住宅のさまざまな空間へ置かれるようになりました。ご家族の洗顔や身支度だけでなく、来客が使用したり、時にはリラクゼーションや美容などの時間を楽しんだりと用途が広がっています。

そんな時代だからこそ、トクラスの「Noare（ノーレ）」は細かなしつらえにこだわった意匠性と、叶えたい暮らしに寄り添うプランで、住空間のさまざまなご要望にお応えします。豊富な組合せを楽しむことができる「Noare」は、新たに開発した塗装8色を含むマルチユースベッセルボウルを採用。独自の塗装技術を用いたボウルとカウンターは、微細な凹凸の風合いや、くすみカラーが魅力。もちろん汚れや衝撃にも強く、長く安心してお使いいただけます。また、飾り棚に使えるデザインシェルフや扉とボウルの色を揃えることができるので、まとまり感のあるスタイルを実現可能です。

ボウルの色だけでなく、プラン自体も多様です。浮遊感あるデザインが美しいフロントタイプや、イスに座って洗面時間を過ごせる片側オープンプラン、奥行20センチの隙間を収納スペースにできるコンパクトキャビネットなど、洗面を楽しく、そして効率的に使えるプランを多数ご用意しています。

小さな気配りが散りばめられた「Noare」を通じて、洗面空間のみならず、お客さまの叶えたい暮らしを創造する提案を目指していきます。福岡、熊本、鹿児島各ショールームで、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



トクラスショールーム福岡
 <住所>福岡市博多区豊1-9-13 <TEL>092-414-8623(担当:牟田口和洋)
 <営業時間>10:00~17:00 <定休>火曜、水曜(その他休日はHPでご確認ください)

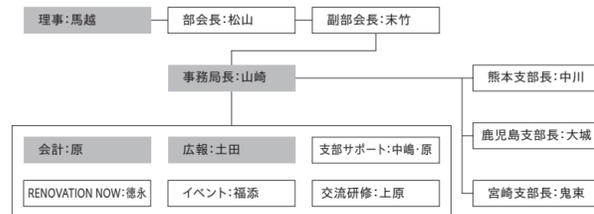
NEWS! 九州沖縄事務局からのお知らせ

2025年4月から、エリアの体制が変わります

エリア内の取りまとめを担うWGメンバー（6役と支部長）の負担を軽減すると同時に、各エリアの活性化を目指して組織改変を行います。

具体的には副部長職と宮崎支部の新設、担務変更、支部再編（7支部体制へ/福岡は北九州と久留米、佐賀エリアを含んだ広域支部とする。その他は熊本、鹿児島、宮崎、沖縄、長崎、大分。支部長不在エリアは、WGメンバーで業務をサポートする）、WG会議の削減、事務局会議の追加など、多岐にわたる変更となりました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

九州沖縄エリア部会事務局 原文美



【注】2025年2月4日の次年度運営会議提案資料を元に作成。上記メンバーが、エリア内の運営を担うWG(ワーキング)の基本参加者となります。グレーの編み掛け部分は、日常的な業務を執行する事務局会議のメンバーです。

2月から5月のスケジュール

- 2月 4日(火) 九州沖縄エリア部会 次年度運営会議
- 3月 4日(火) 九州沖縄WG(福岡/パナソニック)
- 3月 18日(火) 北九州支部RBS(未定)
- 3月下旬 リノベーションタイムズ増刊号
「これからのリノベーションで必要とされるキッチン」発刊
- 4月 8日(火) 九州沖縄WG(福岡/リノベエステイト)
- 5月 10日(土) リノベーションタイムズ Vol.09 発刊
- 5月 13日(火) 事務局会議(福岡/はびりの)

▶リノベーションタイムズには、会員各社の皆さまの情報掲載も可能です。各社の新たなサービスや新製品情報などの掲載をご希望の方は、お気軽に下記または広報スタッフまでご連絡ください。

Renovation Times 一まるごと九州・沖縄一 Vol.08 2025年2月号
 発行 一般社団法人リノベーション協議会 九州沖縄エリア部会
 (エリア内正会員65社/賛助会員19社/2025.1.6現在)
 発行人 馬越重治(エス・コンセプト) 編集人 山崎大亮(はびりの), 原文美(ハラプロ)
 制作 吉田千裕(はびりの) メール info@hara23.jp
 発行日 2025年2月10日
 Renovation Timesでは、リノベーション協議会に参加されている各社の取り組みを積極的にご紹介しています。掲載をご希望の方は、お気軽に上記編集人までご連絡ください。【次回の発行は2025年5月です】

RENOVATION NOW!!!!!!! 開催御礼

「リノベーションの今がわかる」をコンセプトにした「RENOVATION NOW!!!!!!!」が、無事に終了しました。会員各社だけでなく、各エリアのメーカーやインテリアショップ、施工会社などにも協賛いただき、九州4都市で計42のイベントを開催。多彩なラインナップで、エンドユーザーの皆さんにも楽しんでいただけたのではないかと思います。

また、一般の方からの投票でグランプリを決める「リノベーション・オブ・ザ・イヤー ユーザーズチョイス」も同時開催し、投票の結果「株式会社リノリビング（設計協力/リノベエステイト）」の「ひらお横丁〜薬剤師の“インディーズ駅前再開発”の処方箋」が最優秀賞に選定されました。おめでとうございます！

今回、九州各地で新しい取り組みをできたことは、リノベーションの魅力発信の大きな一歩だと確信しています。今年の結果をきちんと総括した上で、今後へとつなげていきたいと思っています。イベント開催にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます！



リノベーションナウ事務局 平成広告宣伝事務所 土田芳史



〳〵まるごと〳〵 九州・沖縄

Renovation Times

VOL. 08 2025.02



ROY2024 総合グランプリ 「ReMAKE」-既存の内装を活かす試み- 株式会社 TOOL BOX

撮影：中村晃

廃棄を減らし、空間を再構築をする サークュラーエコノミーの実験場

今回、グランプリを受賞したTOOLBOXの作品は、タイトルが「ReMAKE」-既存の内装を活かす試み-となっている。ここからも読み取れるのが「ReMake = 再構築」という全体を俯瞰したテーマの存在だ。スケルトンベースのリノベでは当然のように行われている全解体を行わず、既存材を「次の家を作る素材」と見立てていることが特徴だ。

今回の物件は築57年のマンションながら、過去に何度かリフォームを行っていたため「住むことができる状態」だった。しかし、意匠の統一性を欠いていたこともあり、現代人の感性には響かない空間となっていた。だからこそ、既存内装を素材として捉え、現場職人のアイデアやスキル、そしてコンセプトへの共感を軸に再構築を目指している。

実際、今回の工事では既存のシステムキッチン(i型)を切断し、L型に変更して再利用しただけでなく、間仕切り壁の一部を撤去しつつも間柱と横胴縁は既存利用するなど、設計及び施工チームの高い



toolboxの設計施工チーム「ツールボックス工事班」の技が光る

技術力が活かされている。もちろん、それに伴って廃棄物が減少したことも見逃せないメリットである。内装建材の開発や販売がTOOLBOXの主事業であるにも関わらず、既存を活かすことでサーキュラーエコノミー（循環経済）の実現を目指した現場となっている。さらに、その取り組みをWEBで公開し、リノベ検討中の顧客や他の事業者へ開示している点も大きく評価されていた。

九州沖縄からも複数の受賞作 ひまわり、タムタムデザイン

審査員特別賞「手仕事リノベーション賞」を受賞したひまわりの「手仕事と無垢材に敬意を払う」か



手仕事リノベーション賞 手仕事と無垢材に敬意を払う

建築コストの上昇が続く中、既存資材を見極め、手をかけて蘇るものは匠の技で活かし、新品にはない味わいと温かみを生み出した点が評価されたことを大変うれしく思います。これからは職人技や細かな技術、作家の一点物、ヴィンテージ材の活かし方などが再評価される時代になるはずです。リノベ業界全体で、新築にはない魅力の発信を続けていきましょう。

有限会社ひまわり 杉洋亮

今年で12回目となるリノベーション・オブ・ザ・イヤー 2024の授賞式が、2024年12月12日、東京大学本郷キャンパス内にある伊藤謝恩ホールで開催された。全226点の応募作品の中から、66点がノミネート。総合グランプリは、株式会社TOOLBOXの「ReMAKE」-既存の内装を活かす試み-が獲得した。九州沖縄のメンバーがエントリーした中からも計10作品がノミネートされ、その中の2作品が審査員特別賞を受賞した。

【リノベーション・オブ・ザ・イヤー 2024 受賞作品一覧】

総合グランプリ

「ReMAKE」一既存の内装を活かす試みー
株式会社 TOOLBOX



撮影：中村晃

無差別級部門最優秀作品賞

soil and soul (Jam+tamtam)
Japan. asset management 株式会社



800万未満部門最優秀作品賞

驕りの間
株式会社 N's Create.



PLAYERS CHOICE

納屋に住む。
有限会社斉藤工匠店



1500万未満部門最優秀作品賞

感性を解き放つ、45°の秩序
株式会社 grooveagent



1500万以上部門最優秀作品賞

samtati (サンタティ)～他人間相続～
リノクラフト株式会社



【審査員特別賞】

〈わくわく空間創造リノベーション賞〉7帖に作る3つの秘密基地 株式会社i-Plain 〈地域文化再生賞〉続・小倉昭和館～在り続けるということ～ 株式会社タムタムデザイン 〈空間アップデート・リノベーション賞〉「OLDKの我が家」を、大切に住み続けたくて 株式会社ニューユニークス 〈アンティークドリップ・リノベーション賞〉遊郭建具と暮らす 株式会社サンリフォーム 〈パノラミックグリーン・リノベーション賞〉緑映える、心癒う。 株式会社 NENGO 〈実家アネックス・リノベーション賞〉納屋に住む。 有限会社斉藤工匠店 〈ベビーフレンドリー・リノベーション賞〉『mama to co ROOM』 株式会社日々と建築 〈シングルライフ・リノベーション賞〉独りがなんだ 株式会社コスモスインシア 〈ミニマリズム・リノベーション賞〉時代を超えた賃貸『2001年宇宙の旅』 イー・ワークス株式会社 〈手仕事リノベーション賞〉手仕事と無垢材に敬意を払う 有限会社ひまわり 〈街かどリノベーション賞〉地主さん「街かどリノベ」はじめませんか。「こはらだあぜみち」 株式会社ブルースタジオ 〈イノベティブプランニング賞〉廊下が主役の家 株式会社 NENGO 〈職住一体リノベーション賞〉日本初？職住一体に特化した小商いアパート 株式会社エコーラ 〈ローカルヘリテージ・リノベーション賞〉地域資産を、住み継ぐ。 株式会社しわく堂 〈ディスプレイング・リノベーション賞〉埋もれた魅力再発見！「住み育てた家」の美しさ G-FLAT株式会社

らも、同じ視点を感じることができる。築8年という、リノベ業界においては「ほぼ新築」とも言える現場で、8種類のサンドペーパーを使い分け、既存の木素材の質感を職人の手で変化させている。これからはデザインだけでなく、技術力も正当に評価される時代の到来が予想される。

九州沖縄エリアからは、タムタムデザインも審査員特別賞「地域文化再生賞」を受賞した。タイトルは「続・小倉昭和館～在り続けるということ～」となっているが、建物としては新築である。審査の中で「対象外」という声も聞かれたようだが、地域のシンボリックな建物は文化であり、その想いを継承することはリノベーションであるとして受賞が決定した。タムタムデザインという、実績あるプレイヤーの提案だからこそ受け入れられた点はあるかもしれない。それでも、このような審査員の「枠に囚われない発想」が、リノベーション協議会自体の魅力を高めていくと感じた。

建物だけでなく、人の想いを「繋ぐ」ことが未来を作る

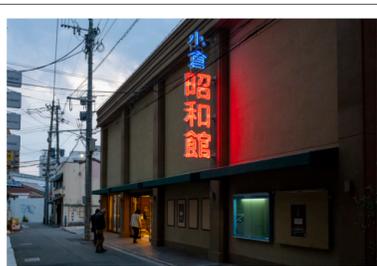
会場で、各賞を発表した審査員から多数聞かれたのが「繋ぐ」というキーワードだ。一口に「繋ぐ」と言っても、繋ぐべき価値があるものは多岐に渡る。既存の建物を再利用することも広義の「繋ぐ」ではあるが、古い建物で使われていた建具（遊郭と

暮らす/株式会社サンリフォーム）や、中には建物ではなくコンセプト自体を繋ぐ（OLDKの我が家を、大切に住み続けたくて/株式会社ニューユニークス）という切り口も見受けられた。

さらに、異形の「繋ぐ」も注目を集めていた。1,500万以上部門で最優秀作品賞を受賞したリノクラフトの「samtati (サンタティ)～他人間相続～」だ。当初は解体して売却する強い意思を示していた売主の気持ちを設計者が媒介し、買主の新たな住まいを実現した異色の作品だ。建物を「繋ぐ」ためには、そこに関わる人々の想いを繋ぐことも重要だと再認識させられた。

参加者の心をつなげた 斉藤工匠店のスピーチ

プレイヤーズチョイスと審査員特別賞「実家アネックス・リノベーション賞」をW受賞した斉藤工匠店の斉藤守平氏（明治10年創業/守平氏は5代目）のスピーチには、一段と大きな拍手が送られていた。リノベを希望された建物の用途が「納屋」だったことで、瑕疵保険に加入できない状況を不安に感じた施主のためにR5を取得。心地よい新居を完成しつつも、将来的には「瑕疵保険に入れるようになってほしい」という提起からは、リノベーション協議会が社会に対して問題提起できる団体であることを再認識させられた。



地域文化再生賞

続・小倉昭和館～在り続けるということ～

小倉昭和館は新築プロジェクトなので、リノベーションには当てはまらないかも…とエントリーを躊躇しましたが、街唯一の映画館が全焼し「再建する」というプロセスが街の文化復興という意味で「地域文化再生賞」を受賞することができました。リノベーションが既存物だけに留まらない、素晴らしい概念だと改めて実感しています。

株式会社タムタムデザイン 田村晟一郎

無差別級部門で最優秀賞を受賞したJapan. asset managementの「soil and soul (Jam+tamtam)」においても、タムタムデザインが意匠設計、デザイン、実施設計を担っています。

さらに、プレイヤーズチョイス受賞後のスピーチでは「地方にある規模の小さな工務店が、プロの皆さんに技術力と設計力を認めてもらえたことがうれしい。頑張ってきたよかった」と涙を流しながら、謝辞を述べていた。グランプリ受賞とも通じる「技術力」を持つ事業者が、協議会のこれからを担う中核となっていく未来を強く感じた。

〈取材・執筆：山崎大亮（はびりの）、原文美（ハラプロ）〉



～ Will you still need me? Will you still feed me?

When I'm Sixty-Four? ～

ビートルズの「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」に収録された「When I'm Sixty-Four」。ステディに向かって「64歳になっても、僕を必要としてくれるかい？」と問いかけるポール・マッカートニー24歳のラブソングです。無垢な、暖かく明るい未来を信じ合う恋する者たちの等身大の想いを描いた、僕の大好きな曲の一つです。そんなポールも64歳の時に、再婚相手のヘザー・ミルズと離婚。その後、三度目の相手と結婚しました。SDGsの人生100年時代となり、4D設計のシナリオは奥深さを増しているようです。



リノベーション協議会九州沖縄エリア部会長 松山真介

TOPIC! RENOVATION NOW!!!!!!! 開催報告

熊本支部

立体的な取り組みが未来へつながる

熊本エリアは11会場で展開。会員企業の事務所やモデルルームのほか、インテリアショップや住宅設備メーカーさんのショールームでも開催されました。初回ということもあり、正直なところまだ認知度は高くなく、集客や成約までは至っていないようですが、まずはこのような枠組みでスタートできたこと自体、成功と言って良いのではないのでしょうか。

これまでのエキスポと変わり、1会場で1～2日のイベントではなく、42ヶ所で1ヶ月間という長期スパンのイベントに進化したことで、よりリノベーションの最新情報がエンドユーザーへ伝わるだけでなく、そのエリアのショップやショールームの認知度も上がっていく。こういう立体的な取り組みが、協議会活動の幅を広げていくと思います。

来年はさらに会場も増えて、各会場でのコンテンツも「その年のナウな情報」へと充実させていけば、年々進化していく面白いイベントになっていくと期待しています。

「リノベナウ」を、九州から全国へと拡散していきましょう！



中川正太郎 (ASTER)

福岡支部

14社が独自の取り組みを開催

福岡エリアではアクタス、ポーコンセプト、KaILEなどインテリアショップが多数入店したBIVI福岡にてパネル展示を行い、多数の来館者にリノベの魅力を伝えることができました。また、協議会メンバーだけでなく、その他のキッチンメーカーやインテリアショップなどにも多数協賛いただき、各社と協議会の繋がりを深化できたことも大きなプラスと感じています。

ご協力頂いたショップからは、今回のメイン会場提供を申し出てくださったり、リノベーション相談会のコラボ開催を希望されたりなど、今後につながる前向きなお声がけもいただきました。今回の趣旨である「ここから始まるリノベーション」の礎になれたのではないかと思います。

また、当社独自の取り組みとしては予約制のオープンハウスを開催しただけでなく、リノベエステイト、パナソニック、はびりのと合同でフクオカリノベツアーを実施。8組14名のお客さまにご参加いただきました。福岡エリアでは計14社がさまざまな取り組みを実施し、短い期間ではあったもののリノベーションの魅力を広ぐ、そして深く伝えることができた9日間となりました。



徳永 祐史 (HIGH END)

鹿児島支部

4つのキーワードからはじまるリノベーション

私たち内村建設は本社1Fのスペースをリノベーションしたカフェ「haf coffee stop」にて、パネル展示を行いました。さらに「建築と人の可能性を拓く」をミッションに掲げる当社として「食、コーヒー、サウナ、街歩き」の4つのキーワードを設定し、人と建築が混ざり合うイベントを開催しました。

「食」では本社前の駐車場にて火起こしから調理まで行う朝食会、「コーヒー」ではカフェの鶴田店長によるハンドドリップ教室を行いました。「サウナ」では絶賛リノベ中の天文館のホテルニューニシノにおいてリノベ現場ツアー、設計担当のアリエサラダの徳永氏によるプレゼンテーション、参加者全員で地域のホテルの未来を考えるワークショップなど、プロジェクトの過去から未来を感じられる取り組みができました。「街歩き」ではコーヒーを片手に、haf coffee stopのリノベプロジェクトの振り返りに始まり、同じエリアの設計事務所であるトラス・アーキテクトの木元氏が手掛ける商店街の長屋を活用したまちづくりを見学しました。リノベや建築の面白さと可能性を参加者に堪能してもらえた一週間になったと思います。



内村明高 (内村建設)

北九州支部

キックオフイベント大盛況!!

キックオフイベントを北九州で開催しました。ゲストにはLIFULL HOME'S総研の島原万丈さん、SUUMO編集長の池本洋一さんという業界メディアの2トップにご登壇頂きました。膨大なデータから読み取る住宅マーケットの傾向、最新の住宅&リノベーション業界の動向、世界と日本を比べた視点など、目から鱗の内容ばかりで私自身も大変勉強になりました。

第2部のクロストークでは過去10年を振り返った業界の動きと、そこから見えてくる未来に向けた思考展開などをフリートーク。アポロ計画の松山真介さんがMCとして進行し、とても内容の深いものとなりました。第3部では審査委員長を務められる島原さんが居心地悪そうにされる中（笑）、勝手にROY 2024の予想を行いました。

今回は非会員の参加も多く、「知らなかったことだらけで、すごく勉強になりました!」、「こんなイベントなら毎回参加したいです。次回もぜひ誘ってください!」と大絶賛のメッセージを頂きました。来年に向けて、良い前段になったと実感しています。



田村晟一郎 (タムタムデザイン)

Column

「When I'm Sixty-Four」人生にフィットする4D設計

34歳の時に初めてした住宅購入&リノベ。老後、いや10年後の人生さえ五里霧中でしたが、35年の住宅ローンが、いくつかの想定できる「誰と、何処で、何を」と言った人生のシナリオを描くきっかけづくりとなりました。

僕の提唱する「4D設計」は、その実体験から生まれた設計手法です。三次元空間に、時間軸を加味した四次元の設計。デザイナーはお客さまの人生設計はできませんが、人生にフィットする空間設計はできます。どれだけ未来を描くサポートができるかが、リノベのプロフェッショナルとして必要なことだと考えています。